

大阪市小学校教育研究会

国語部 書写委員会

令和7年度

めざす学習者像

文字を大切にし、学んだことを日常生活に生かそうとする

4年 『平がな（折れ）』

（「らん」光村図書4年）

令和7年度 国語部書写委員会の研究

単元名「平仮名(折れ)『らん』」

(光村図書4年)

単元目標

○毛筆を使用して、平仮名の筆使い(折れ)への理解を深め、筆圧などに注意して書くことができる。

視点1 学習者が「学びのつながり」を意識して学習を進めるための単元構想

【学びのつながりを重視した「付きたい力」と言語活動の設定】

本単元の学習材「らん」は、以下のような単元間の関連と系統に位置付けられる。

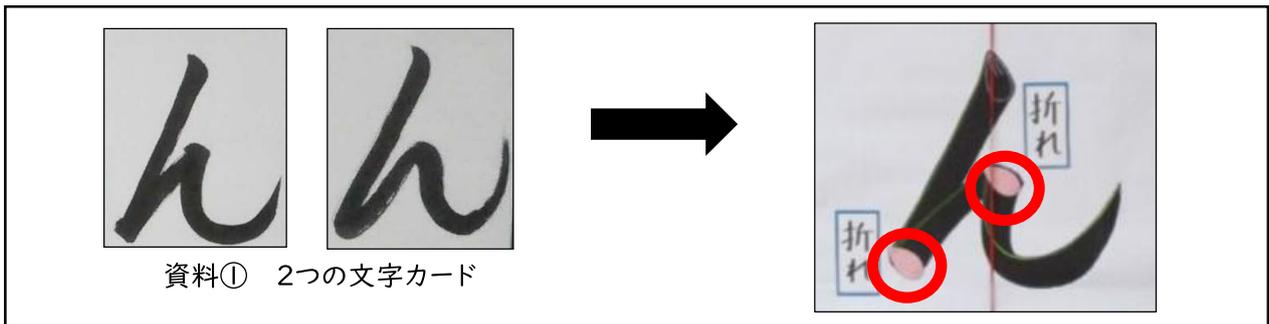
前々単元(2年9月)	前単元(3年6月)	本単元(4年10月)
学習材 「おれ」のほうこう 点画(おれ)の方向に注意 して、文字を正しく書くこと ができる。(硬筆)	学習材 おれ「日」 毛筆を使用して、折れの書 き方への理解を深めて書く ことができる。	学習材 平仮名(折れ)「らん」 毛筆を使用して、平仮名 の筆使い(折れ)への理解を 深め、筆圧などに注意して 書くことができる。

平仮名の「折れ」は、書写学習では初出の学習内容である。平仮名の「折れ」には、二つの特徴がある。一つ目は、漢字の「折れ」に比べると、角度が急になる場合が多いこと、二つ目は、「折り返し」という仮名特有の書き方があるという点である。

本単元の学習材「らん」では、平仮名「ん」に「折れ」と「折り返し」の両方が含まれているため、筆使いを比べることができる。そのため、「折れ」では、「折れるところで一度止まってから方向を変える」、「折り返し」では、「少し重ねて、来た道を戻るようにして書く」という違いに気付くことができる。また、「折れ」のある平仮名を整えて書くために、「角の方向は変わっても、穂先の向きは変わらない」という内容の理解は、ほかの文字を書く際にも応用できると考えた。そのため、以下の三つの言語活動の場を設定した。

(1)教科書 p.16 の2つの「ん」を見て、整っているのはどちらかについて

○穂先マグネットの活用【第1時】



「折れ」のある「ん」と「折れ」ていない「ん」の2つの文字カード(資料①)を提示し穂先マグネットで「折れ」の位置を確認する活動を通して、児童は「折れ」を書く際のポイントに気付くことができた。学習者から出てきた言葉を基に言語化して、「一度、筆を止める」「穂先の向きは変えない」というポイントを全体で確認し、共通理解することができた。

(2) 「折れ」と「折り返し」の筆使いについて

○点画ピースの活用【第2時】



資料② 点画ピース(左)・点画ピースを動かす場面(中)・画の向きを確認用のシート(右)

点画ピース(資料②)を活用することで、「折れ」を書く際の角度を意識させることができた。また、画の向きに着目させることで、「折れ」と「折り返し」の違いにも気付かせることができた。(「折り返し」は、「折れ」の中に位置付けられる)

(3) 既習の平仮名で「折れ」と「折り返し」の筆使いについて

○文字カードの活用【第3時】



資料③ 既習の平仮名で「折れ」と「折り返し」を確認するためのカード

毛筆で身に付けた学びを硬筆へ生かす際の課題見付けの場面では、「み」「て」「ね」の3枚の文字カード(資料③)を活用することで、ポイントを確認しながら、「み」は折れのある文字、「て」は折り返しのある文字、「ね」は、折れと折り返しの両方がある文字だということを全体で共通理解できた。

【学習者が学びのつながりを意識しながら、見通しをもって主体的に学びを進めるための単元計画の作成】

(1) 単元計画の作成

本単元では、以下のように作成した。

第1時 毛筆 平仮名の筆使い「折れ」について理解を深める。(本時)

- 2つの「ん」の文字カードを見ながら、「折れ」の部分と比較して、形の違いや筆遣いについて話し合う。

第2時 毛筆 「折れ」と「折り返し」の筆使いについて考える。

- 「ん」の点画ピースを用いて、「折れ」と「折り返し」の筆使いはどのようにすればよいのかを考える。

第3時 硬筆 「折れ」と「折り返し」のある平仮名を書く。

- 五十音表で見付けた「折れ」を○で、「折り返し」を△で囲み分類する。見付けた文字をまとめとして書く。

(2) 書写学習の流れ

見通しをもって主体的・対話的に取り組むことができるように、毎時間の書写学習の流れ（資料④）を以下のように決めている。

書写学習の流れ（硬筆・毛筆関連）

1. 題材を知る。
2. 硬筆の試し書きをする。【学習シート】
3. 毛筆の試し書きをする。
4. 本時の課題をつかむ。
5. 課題を解決する方法を話し合う。
6. 毛筆で練習する。 【練習シート】
7. 相互評価をする。（本時の課題を中心に）
8. 毛筆でまとめ書きをする。
9. 毛筆の試し書きとまとめ書きを見比べ、学習の成果をみる。
10. 学習の成果を発表する。
11. 硬筆のまとめ書きをする。【学習シート】
12. 硬筆の試し書きとまとめ書きを見比べ、学習の成果をみる。
13. 硬筆で発展練習をする。
14. 日常の活動に書写力を取り入れる。

資料④ 書写学習の流れ

授業の最初に、学習の流れ（資料⑤）を短冊で貼りながら確認することで、見通しをもって学習に取り組むことができる。



資料⑤ 1時間の流れを見通すことができる板書（第1時）

(3) 学び合いの活動

学習者を4人(3人)グループ（資料⑥）にし、準備、学習の交流、片付けを行う。準備・片付けの際には、一人一人の役割を明確にする。学習前の準備や学習後の片付けをグループで協力することにより、学習をスムーズに進めることができるようにしていく。

【役割分担の例】

① 筆あらいの準備
② 半紙配り (通常は4枚+練習シート1枚)
③ 教科書・赤ペンの配布・回収
④ 作品(試し書き・まとめ書き)の回収



資料⑥ 座席の位置

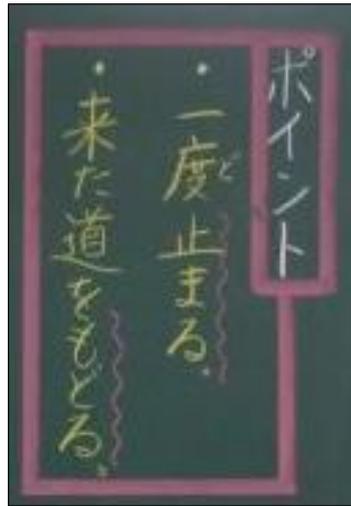
【学習者が学びを自覚し、学びを調整するための評価基準や振り返りの方法の明確化】

(1) 評価基準

毎時間、書くためのポイントを、学習者から出てきた言葉を使って共通理解した。



資料⑦ 第1時のポイント



資料⑧ 第2時のポイント

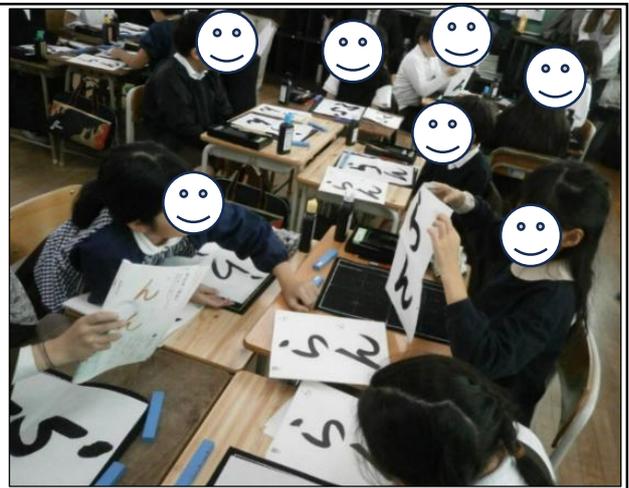


資料⑨ 第3時のポイント

ポイントを見付ける際には、教具を活用する。第1時では、二つの文字カード(資料①)、第2時では、点画ピース(資料②)、第3時では、既習の平仮名で「折れ」と「折り返し」を確認するための文字カード(資料③)を活用した。教具を活用することで、学習者の主体的・対話的な学びにつながると考えた。

また、第1時では、QRコンテンツの活用も行った。動画を視聴することで、「一度、筆を止める」「穂先の向きは変えない」という二つのポイントを、再度、確認する場とした。(25~40秒)

○グループでの評価

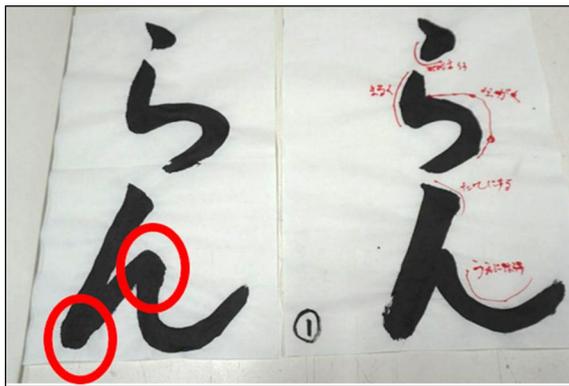


資料⑩ アドバイスタイムの様子(第1時)

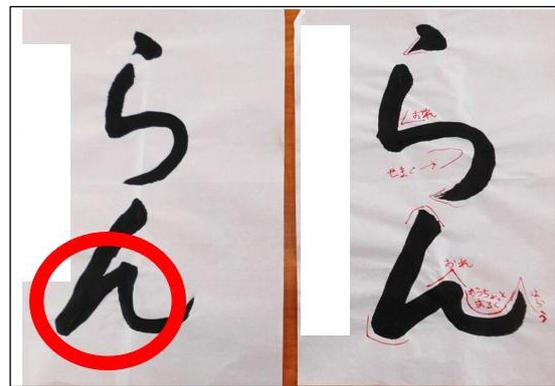
アドバイスタイムでは、共通理解したポイント(資料⑦⑧⑨)にそって、互いに「『折れ』でしっかり止まれば、もっとよくなるよ」「始筆のまま穂先の向きを変えない方がいいよ」というように、書写用語を用いて改善点を話し合った(資料⑩)。学習者から出てきた言葉を使ってポイントとして共通理解し、黒板に提示したり、くり返し指導者から言葉がけしたりすることにより、いつでもポイントを見返すことができる環境づくりや、学習者が意識して文字を書いたり、交流したりできるような場づくりを行った。

(2) 振り返り

○作品の掲示の仕方

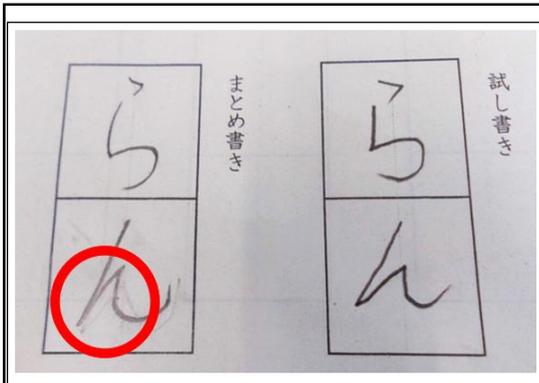


資料① 第1時の掲示



資料② 第2時の掲示

作品は四つ切りの画用紙の右側に試し書き、左側にまとめ書きの半紙を貼り付けて掲示した(資料①)。文字は縦書きのため、このように時系列で貼ることで個人内評価がしやすくなり、学習者が自身の成長や、級友の学びの成果を実感しやすくなる。さらに、学習者が自らの学びを振り返りやすくなった。



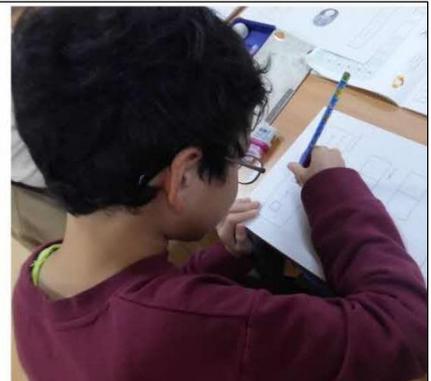
学習シート

「折れ」の筆後に「折れ」について

考えた

分かった

書けた



資料③ 学習シート(第3時)

第3時では、毛筆で学んだことを硬筆に生かす学習を行った。書写学習では、第1時の硬筆での試し書きから始まり、第3時の硬筆でのまとめ書きまでが一連の流れとなっている。学習シート(資料③)では、試し書きとまとめ書きを並べて書き込めるようにすることで、学習のつながりと自己の成長を実感できるような工夫をしている。

学習の最後の振り返りとしては、第3時に学習シート(資料③)を活用して行っている。今回は、「折れ」の筆使いについて、「考えた」「分かった」「書けた」という三つの観点で振り返りを行った。

また、毎回の振り返りに関しては、相互評価や全体評価でも行っている。(視点2を参照)

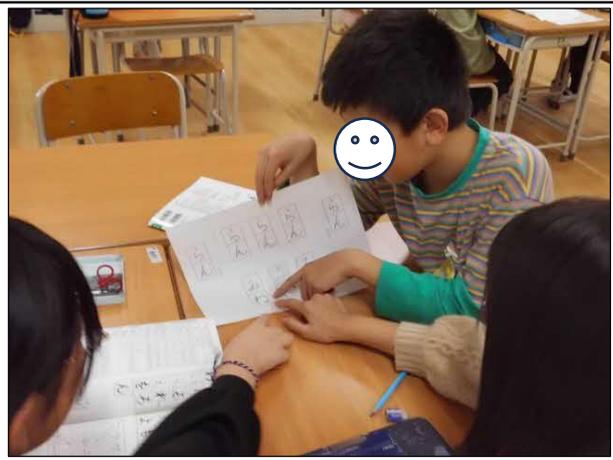
視点2 学習者が、主体的に自分の思いや考えをもったり伝え合ったりすることができる学習活動の在り方

【学習者が進んで課題解決に向かうことができる学習課題や発問の工夫】

書写学習においては、学習の流れが課題解決学習そのものでもありと考えている。毎時間の書写学習の流れ(資料④⑤)を決め、くり返し行うことで見通しをもって活動できる手立てとしたり、教具(資料①②③)を活用することで学習者の学習意欲を高めたり、アドバイスや評価での交流の場(資料⑩)を設けることで学びを広げたり深めたりすることにつなげている。(視点1を参照)

【学習者が課題解決に向かって自らの学び方を選択できる交流形態・方法の工夫】

○グループでの交流



資料⑭ グループでのほめほめタイムの様子（左）第1時・（右）第3時

ほめほめタイムでは、試し書きとまとめ書きを見比べながらポイントにそって、よくなった点を互いにほめ合った（資料⑭）。試し書きとまとめ書きを見比べることで、個人内での評価となるため、学習者は自分の成長を実感することができた。また、伝える側も相手の変化に気づきやすくなるため主体的・対話的な学びにつなげることができた。

また、個人内の評価は、相手からのアドバイスを基に今後の自分にどう生かすかを考えることになるため、学び方を自分で決めることになる。

○全体での評価



資料⑮ 全体でのほめほめタイムの様子（第1時）

特に、試し書きとまとめ書きに顕著な変化が見られた学習者を取り上げ、全体でもほめ合う活動を取り入れた（資料⑮）。ほめほめタイムを行うことは、学習者が達成感や充実感を味わえるため、次時以降への学習意欲にもつながった。

○書写用語の明確化



資料⑯ 書写用語の掲示

既習の書写用語をいつでも見返すことができるように掲示したり、新出漢字を学習するなどの他の時間にも活用したりすることで、学習課題を見付けたり、交流したりする際に意識して書写用語を使えるような学習環境を整えた(資料⑯)。

視点3 国語科の学習と、日常生活とをつなげるための手立て

五十音表の活用

五十音表を活用し、「折れ」と「折り返し」のある文字を見付ける活動を行った。



資料⑰ 「折れ」「折り返し」のある文字を分類する様子(第3時)

学習者は、3つの文字カード(資料③)で確認した「折れ」のある文字に○を、「折り返し」のある文字に△を、両方ある文字には○と△を付けながら、分類する活動(資料⑰)に取り組んだ。その後、学習シートを使って見付けた文字の練習を行うことで、学んだことを他の文字へとつなげることができた。

日常生活への活用

国語科に限らず、学んだことを日常の文字へ生かす取り組み(資料⑱)を行っている。



資料⑱ 試写や新聞等の掲示物

成果と課題(○成果、●課題)

〈視点1〉

- 点画についての書写用語を系統的・継続的に学習したことで、本教材「ん」についても課題である「折れ」を意識して文字を書くことができた。また、「折り返し」という仮名特有の書き方についても、児童自身が課題に気付くことができた。
- 試し書きと手本の文字を見比べて、自らの文字に課題を書き込む際には、画数や書写用語などの既習事項を基に課題を見出すことができた。自ら課題を把握し、解決のために思考する主体的な書写学習を進めることにつながった。
- 穂先手袋や穂先マグネット等の教具を活用することで、筆使い(一度止めてから方向を変える、画の方向を変えても穂先の向きは変えない)を視覚的にとらえ、課題文字の練習に生かすことができた。
- 課題解決学習のための書写学習の流れを繰り返し行うことで、児童自ら課題把握から解決まで見通しをもって学習に取り組むことができるようになった。
- 学習者が、課題解決して文字を書くよさをいっそう実感できるようにするために、「『折れ』の筆使いを意識して書くことができれば、正しく整った文字が書きやすくなる」という本質的な意義についても、指導者と学習者とが共有する必要があった。
- 平仮名を書く際に、筆を止めるときは押さえる、筆圧をコントロールしながら字形を整える等、毛筆の特性を生かした学習が行えるように、点画や筆圧、字形など指導の系統性を意識できるようにしていく。

〈視点2〉

- グループ学習では、課題の発見、成果の確認等、課題や成果を共有しながら対話的に学習に取り組めるようになってきた。
- 共通の課題をより意識しながら課題解決や、成果の交流を行うことができるようにするために、共通の課題を確認した後に、再度、自身の文字と手本を見比べて課題把握を行うようにする。
- 学習者が、より主体的に学習に取り組むことができるようにするために、文字を書きやすくするための学習要素(筆使いや筆順等)を意識するのか、読みやすさ(字形や配列等)を意識するのか、本時の課題を焦点化する。

〈視点3〉

- 毛筆学習で身に付けた「折れ」「折り返し」の筆使いを生かして、硬筆でも「折れ」「折り返し」がある平仮名の文字を書くことができた。
- 日常の学習においても、「折れ」「折り返し」がある文字を発見し、意識して書けるようになってきた。

今後とも手書き文字を発信し、日常に生かす場を意図的・積極的に設定することで「文字を大切にし、学んだことを日常生活に生かそうとする学習者」の育成をめざし、文字を書くことの楽しさを味わうことができるような研究を進めていきたい。

令和7年 書写委員会 資料

以下の資料は、「小学校教育研究会 国語部」のホームページからダウンロードすることができます。



- P157 「平がな（折れ）「らん」」指導案
- P166 「平がな（折れ）「らん」」学習シート
- P168 「平がな（折れ）「らん」」かご字

4年 国語科（書写）学習指導案

授業者 大阪市立神津小学校 岩川 明代
授業者 大阪市立中津小学校 荒武 まゆみ

1. 日時 令和7年10月16日（木）第5校時（13：40～14：25）
令和7年11月11日（火）第5校時（14：00～14：45）
2. 学年・組 第4学年1組（在籍22名）
第4学年1組（在籍27名）
3. 単元名 平がな（折れ）「らん」（光村図書4年）

4. 単元目標

○毛筆を使用して、平仮名の筆使い（折れ）への理解を深め、筆圧などに注意して書くことができる。

（1）毛筆を使用して、平仮名の筆使い（折れ）への理解を深め、筆圧などに注意して書いている。 [知識及び技能]

（2）（毛筆で「らん」を書写するなかで、平仮名の筆使い（折れ）を確かめ、ほかの平仮名に生かすことができる。）

[思考力、判断力、表現力等]

（3）進んで平仮名の筆使い（折れ）への理解を深め、学習課題に沿って折れをもつ平仮名を書くようにしている。 「学びに向かう力、人間性等」

5. 単元間の関連と系統

前々単元（2年9月）

前単元（3年6月）

本単元（4年10月）

学習材

「おれ」のほうこう
点画（おれ）の方向に注意して、文字を正しく書くことができる。（硬筆）

学習材

おれ「日」
毛筆を使用して、折れの書き方への理解を深めて書くことができる。

学習材

平がな（折れ）「らん」
毛筆を使用して、平仮名の筆使い（折れ）への理解を深め、筆圧などに注意して書くことができる。

6. 単元で取り上げる言語活動

- ・教科書 p.16 の2つの「ん」を見て、整っているのはどちらかを話し合う。
- ・「折れ」と「折り返し」の筆使いについて話し合う。
- ・既習の平仮名で「折れ」と「折り返し」の筆使いについて話し合う。

7. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 毛筆を使用して、平仮名の筆使い（折れ）を理解している。 ② 筆使い（折れ）の筆圧などに注意して書いている。	① 毛筆で「らん」を書写するなかで、平仮名の筆使い（折れ）を確かめ、ほかの平仮名にどのように生かすか考えている。	① 学習したことを生かして書いた文字を見直し、平仮名の筆使い（折れ）に気を付けて、進んで書こうとしている。

8. 指導にあたって

【児童観】

本学級の児童は、低学年から文字をていねいに書くように言葉がけをしているため、文字をていねいに書こうとする姿が見られる。「相手を意識して文字を見やすく、ていねいに書けていますか」というアンケートでは、最も肯定的な回答が36%、肯定的な回答が56%と、いつでも相手を意識して丁寧に書くことができる児童が増えてきている。その一方で、「書写で付けた力を他の学習に生かしていますか」というアンケートに最も肯定的な回答が24%、肯定的な回答が52%、否定的な回答が24%と、新出漢字の練習をする際には丁寧に書くことができるが、普段のノートや作文などは雑な文字になってしまう児童がまだ多い。

本単元の折れの書き方に関連するものとして1年生では、「の」「そ」で点画の書き方(曲がり・折れ)を、2年生では、「日」「口」等で点画(折れ)の方向に注意して、硬筆で正しく書くことを学習した。3年生では、「日」で毛筆を使用して、折れの書き方への理解を深めた。4年生の書写の学習では、「麦」で画の方向(左払い)を学習した。それぞれの文字ごとに共通課題を意識した自己の課題を決め、字形を整えて書くことを意識して取り組んできた。

事前に「ゆびわ・ひるね・えんそく」の書き方について実態調査を行った。それぞれの文字「ゆ」「び」「わ」「ひ」「る」「ね」「え」「ん」「そ」の折り返しができているかを確認したところ、適切な折れができている割合は「び」が32%、「ひ」が20%、「そ」が48%と「ひ」部分で低い結果となった。「ん」については、84%と比較的高い結果となったが、2度目の折れが曲がりになっている児童も多く見られた。「え」でも同じく2度目の折れが曲がりになっている傾向が見られた。

新出漢字の練習の際には、筆順を確かめて正しく書こうとする姿や、文字を書く際にていねいに書こうとする姿が見られる。しかしながら、ていねいに書くことはできても、一つ一つの文字の点画の種類を意識しながら正しく書くまでには至っていない。話合い活動については、友達の文字のよいところを見付けたり、アドバイスしたりすることができるようになってきている。

【単元観】

平仮名の「折れ」は、毛筆書写学習では初出の学習内容である。平仮名の「折れ」には、二つの特徴がある。一つ目は、漢字の「折れ」に比べて角度が急になることが多いこと、二つ目は、「折り返し」という仮名特有の書き方があるということである。「折れ」は、折れるところで一度止まってから方向を変え、「折り返し」は、一度止めてから、少し重ねて来た道に戻るようにして書くという違いがある。

本単元の「らん」では、平仮名「ん」に「折れ」と「折り返し」の両方が含まれているため、

筆使いを比べることができる。また、「折れ」のある平仮名を整えて書くために、画の方向は変わっても、穂先の向きは変わらないということを理解することで、ほかの文字にも応用していくこともできる。

【指導観】

書写委員会のめざす学習者像「文字を大切にし、学んだことを日常生活に生かそうとする」子どもを育てるために、二つのことを大切に学習活動を進めていく。

一つ目は主体的な対話を通して学びを深め、学んだことを日常に生かせるようにする。主体的に学習を進めることができるように『準備・片付け』『見通し』『課題把握』を大切にする。『準備・片付け』では、4人グループで役割を決めて学習が進められるようにしていく。(例…①筆洗いの準備、②半紙配り(通常は4枚+練習シート1枚)、③教科書配布・回収、④作品(試し書き・まとめ書き)回収)グループ内で役割を変えることにより、学習前の準備を各自が身に付けられるようにし、グループで協力して滞りなく授業が始められるようにする。『見通し』では、学習の始めに「試し書き・練習・アドバイスタイム・まとめ書き・ほめほめタイム」の学習過程を掲示し、1時間の学習の流れをクラス全体で共有し、見通せるようにする。『課題把握』として、試し書きを教科書と見比べて自己の課題を決定し、その後で共通課題を全体で共有し、何のために学ぶのか、何を学ぶのかを明確にする。対話を通して学びを深めることができるように学習内容の視覚化を図る。教科書のQRコンテンツや点画ピース、穂先手袋と穂先マグネット等を使って拡大提示した文字の「折れ」と「折り返し」の筆使いをグループ、全体、学習者と指導者の対話を重ねることで、文字を整える要点を多面的に捉えることができるようにする。また「折れ」の中に、「折り返し」が含まれること等、学習用語に関しても意識して使えるように指導する。

二つ目は評価規準と振り返りの方法を明確にすることである。授業の終末には必ず、試し書きとまとめ書きを見比べて自己評価と相互評価を行い、学習の成果を確かめるようにする。本時の共通課題を意識して評価することにより、一時間の活動の成果を振り返ることができる。3時では五十音表から「折れ」と「折り返し」を見つけることで、普段から気をつけて書くようにし、日常生活に生かせるようにしたい。

なお、試し書きとまとめ書きは台紙に並べて貼り、個別の学習成果を振り返れるようにする。このようにして、書写の時間に学んだことを日常に生かせる子どもが育つようにしていきたい。

9. 指導と評価の計画（全3時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1 本 時	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○「らん」を硬筆と毛筆で試し書きし、自己の課題をもつ。</p> <p>○本時の共通課題を知る。</p> <p>○教科書 p.16 「ん」の二つの文字カードを見比べて話し合う。</p> <p>○「ん」の筆使いの動画で確認する。(25~40秒)</p> <p>○拡大教科書の文字を穂先手袋でなぞったり、穂先マグネットを使用したりして筆使いを確認する。</p> <p>○練習シートで練習してから半紙に「らん」と書く。</p> <p>○「折れ」の筆使いについ</p>	<p>・本時の学習の流れを知らせる。 「試し書き・練習・アドバイスタイム・まとめ書き・ほめほめタイム」の短冊を黒板上部に貼り、学習過程を見通せるようにする。</p> <p>・学習する文字について確認した後、教科書を見ずに書くように促す。</p> <p>・毛筆の教科書と見比べ、自己の課題を赤ペンで書き込むように指示する。</p> <p>・平仮名の「折れ」の筆使いについて考えることを知らせる。</p> <p>・「折れ」の部分と比較して形の違いについて全体で話し合い、確認事項を提示する。 (評価ポイント)</p> <p>・「ん」の筆使いの動画を見せ、一度、筆を止めることを再度確認できるようにする。</p> <p>・児童が拡大教科書の文字を、穂先手袋を使って、なぞり書きすることで、穂先の向きは変えないことを、穂先マグネットを貼ることで、折れるところで、一度止まることを全体で確認する。</p> <p>・練習シートに練習した後、半紙に書くように促す。</p> <p>・黒板に掲示しているポイントに</p>	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 自らの文字と教科書を見比べ、自己の課題を見つけている。</p> <p>[思考・判断・表現] 「折れ」の形の違いについて話し合っている。</p> <p>[知識・技能] 「折れ」の書き方を理解している。</p> <p>[知識・技能] 「折れ」の筆使いに気を付けて書いている。 (行動観察)</p>

	<p>て友達からアドバイスをもらう。</p> <p>○本時のまとめ書きをする。</p> <p>○本時の成果について確かめる。</p> <p>○次時の予告をする。</p>	<p>着目して、アドバイスするよう指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の共通課題に気を付けて書くように促す。 ・試し書きとまとめ書きを見比べて自己評価したり、よくなった点を相互評価によって見つけ合ったりするように促す。 ・「折れ」と「折り返し」について考えることを知らせる。 	
2	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○自己の課題をもつ。</p> <p>○本時の共通課題を知る。</p> <p>○「折れ」と「折り返し」の筆使いについて考える。</p> <p>○前時のまとめ書きを見て「折れ」と「折り返し」の組み合わせ方について自己評価する。</p> <p>○練習シートで練習した後、半紙に書く。</p> <p>○友達からのアドバイスをもらう。</p> <p>○まとめ書きをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で使った短冊を黒板に提示し、本時の学習の流れを知らせる。 ・前時のまとめ書きを見て、改善したいところに赤ペンでしるしを付けるように促す。 ・「折れ」と「折り返し」の筆使いについて考えることを知らせる。 ・「ん」の点画ピースをマグネットボード上で児童が操作することで、「折れ」と「折り返し」の筆使いを全体で気付けるようにする。 ・前時に書いた文字が本時の目標に合っているかを確認するように指示する。 ・「折れ」と「折り返し」の筆使いについて気を付けながら書くように促す。 ・本時の目標を中心に相互評価するように指示する。 ・本時の共通課題について、まと 	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕</p> <p>前時を想起したり、学習過程を掲示物で振り返ったりして、指示なく自ら学習に取り組もうとしている。</p> <p>〔思考・判断・表現〕</p> <p>筆使いについて考えている。 (意見交換の様子)</p> <p>〔知識・技能〕</p> <p>筆使いについて考えながら書いている。</p>

	<p>○本時の成果について確かめる。</p> <p>○次時の予告をする。</p>	<p>め書きをするように指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を中心にして、自己評価と相互評価をするように指示する。 ・第1時の試し書きと見比べ、学習の成果を確かめるように指示する。 ・学習シートに「らん」のまとめ書きをして、学習の振り返りを記入する。 ・硬筆で「折れ」「折り返し」のある平仮名を書くことを知らせる。 	
3	<p>○学習の見通しをもつ。</p> <p>○「折れ」「折り返し」について確かめる。</p> <p>○「み」「て」「ね」の3つの文字について「折れ」「折り返し」について考える。</p> <p>○「折れ」「折り返し」がある平仮名を五十音表から見つける。</p> <p>○3種類に分類できることに気付く。</p> <p>○学習シートに書き込む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を「ん」の文字カードを見ながら振り返り、本時は硬筆を用いて、「折れ」「折り返し」のある平仮名を書くことを知らせる。 ・「折れ」「折り返し」について気を付けることを確認する。 ・「み」「て」「ね」の文字カードを使い、「折れ」だけの文字、「折り返し」だけの文字、「折れ」「折り返し」の文字があることに気付くようにする。 ・五十音表で見つけた「折れ」を○で、「折り返し」を△で囲むように指示する。 ・グループで交流し、「折れ」と「折り返し」について話し合い、3つに分類できるようにする。 ・分類したものを全体で確かめる。 ・「折れ」と「折り返し」の違いを意識しながら練習シートに書くように指示する。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>文字カードと本時の目標の掲示物により学習の進め方について理解している。</p> <p>[思考・判断・表現]</p> <p>3つの文字の違いについて考えている。</p> <p>[知識・技能]</p> <p>「折れ」「折り返し」の違いに気付いている。</p> <p>(意見交流の様子)</p> <p>[主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>文字を書く際に、「折</p>

	○学習の振り返りをする。	・「折れ」と「折り返し」について理解できたかどうかを自己評価するよう指示する。	れ」「折り返し」の筆使いについて学習したことを生かそうとしている。 [知識・理解] 「折れ」「折り返し」の違いを意識している。(学習シート)
<p>[知識・技能①] 作品観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おおむね満足できる」状況 (B) 評価 ・「折れ」の筆使いを理解して書いている。 <p>「努力を要する」状況 (C) への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折れるところで一度止まることがわかるように、穂先の形を入れた練習シートにより、「折れ」の筆使いを実感できるようにする。 <p>[知識・技能②] 作品観察 (第2時)</p> <p>「十分満足できる」状況 (A) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「折れ」と「折り返し」の違いを理解して使い分けて書いている。 <p>「おおむね満足できる」状況 (B) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「折れ」と「折り返し」の違いを意識し、気を付けて書いている。 <p>「努力を要する」状況 (C) への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点画ピースを操作し、折れるところの画の向きを確認できるようにする。 <p>[思考・判断・表現①] 観察 (第3時)</p> <p>「おおむね満足できる」状況 (B) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「折れ」の筆使いについて、違いを考えながら書いている。 <p>「努力を要する」状況 (C) への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの文字のカードを見比べるように助言し、画の向きを意識できるようにする。 <p>[主体的に学習に取り組む態度①] 行動</p> <p>「おおむね満足できる」状況 (B) 評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習材以外の文字の「折れ」にも学習したことを生かそうとしている。 <p>「努力を要する」状況 (C) への手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折れるところで一度止まることがわかるような印を入れたプリントを渡して、書き方を意識できるようにする。 			

10. 本時の学習

(1) 本時の目標 (1/3)

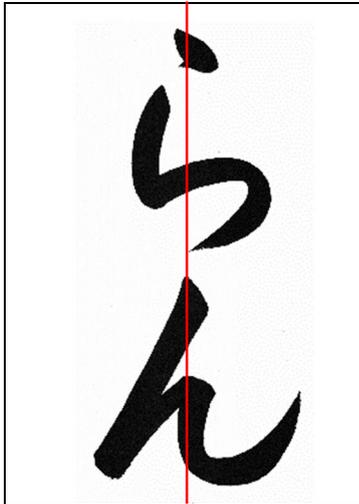
毛筆を使用して、平仮名の筆使い（折れ）への理解を深め、筆圧などに注意して書くことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
<p>1 本時の学習内容について知り、学習の見通しをもつ。 (学習の流れの短冊)</p> <p>2 「らん」を硬筆と毛筆で試し書きをする。 (学習シート)(半紙)</p> <p>3 自己の課題をもつ。</p> <p>4 本時の共通の課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ためし書き」「練習」「アドバイスタイム」「まとめ書き」「ほめほめタイム」の短冊を黒板上部に掲示し、本時の学習の流れを把握できるようにする。 ・空書きで筆順を確認し、教科書を見ないで硬筆と毛筆で「らん」と書くことを指示する。 ・教科書を見て、毛筆試し書きの直したいところを見つけて赤ペンで一文字につき2か所しるしを付けるように促す。 ・共通課題を提示する。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] 自らの文字と教科書を見比べ、自己の課題を見つけている。</p>
<p>平がなの「折れ」の筆使いに気をつけて書こう。</p>		
<p>5 「ん」の二つの文字カードを見比べて話し合う。</p> <p>6 「ん」の筆使いの動画で確認する。(25～40秒)</p> <p>7 拡大教科書の文字を穂先手袋でなぞったり、穂先マグネットを使用したりして筆使いを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「折れ」の部分を比較して形の違いについて、話し合えるようにする。 ・気付いたことを黒板に提示する。 ① 一度筆を止める。 ② 穂先の向きは変えない。 ・教科書のQRコンテンツを使い、「折れ」の筆使いについて話し合いながら確認していく。 ・児童が拡大教科書の文字を、穂先手袋を使って、なぞり書きすることで、穂先の向きは変えないことを全体で確認する。 ・拡大教科書に穂先マグネットを貼ることで、折れるところで、一度 	<p>[思考・判断・表現] 「折れ」の形の違いについて話し合っている。</p> <p>[知識・技能] 「折れ」の書き方を理解している。</p>

<p>8 練習シートで練習してから半紙に「らん」と書く。</p> <p>9 「折れ」の筆使いについて相互評価する。 (アドバイスタイム)</p> <p>10 本時のまとめ書きをする。</p> <p>11 グループで交流し、本時の成果について確かめる。 (ほめほめタイム)</p> <p>12 次時の予告をする。</p>	<p>止まることを全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 練習シートで練習した後すぐに、半紙に「らん」と書くように促す。 短冊のポイントを基に評価するように指示する。 本時の学習を念頭に置きながら半紙で2枚書き、1枚選んで名前を書くように指示する。 硬筆や毛筆の「ためし書き」と「まとめ書き」を見比べて自己評価し、グループでよくなったところを賞賛しあうように促す。 「折れ」と「折り返し」について学習することを知らせる。 	<p>[知識・技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> 「折れ」の筆使いに気を付けて書いている。 <p>(行動観察)</p>
---	---	---

11 板書計画

ほめほめタイム	まとめ書き	アドバイスタイム	練習	練習シート、半紙一枚		穂先の向きは変えない	一度筆を止める		課題見つけ	ためし書き	平がなの「折れ」の筆使いに気を付けて書こう
---------	-------	----------	----	------------	---	------------	---------	--	-------	-------	-----------------------

月 日

学習シート

名前	
----	--

平かなお(折れ)

試し書き

--	--

おとめ書き

--	--



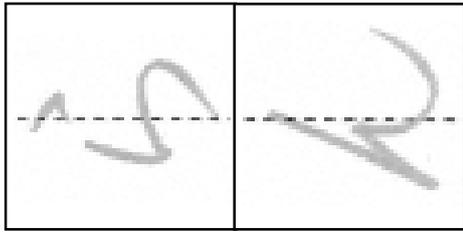
[ふりかえり]

「折れ」の筆使いについて

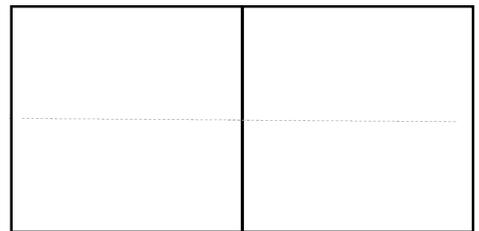
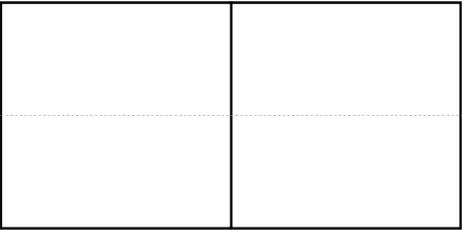
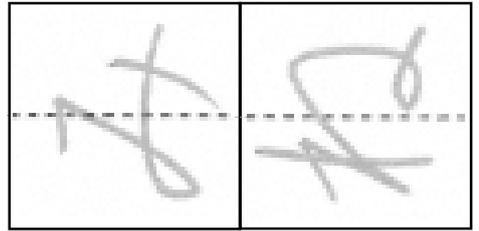
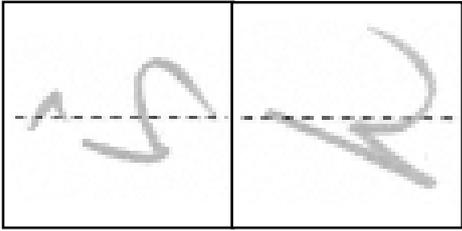
考えた

分かった

書けた



(右打ち)



(左打ち)

